

たまねぎレポート【第387号】



令和2年1月28日

阪南青果株式会社

社内報

12月の天候は、東・西日本で気温はかなり高く、沖縄・奄美で高かった。東日本の太平洋側と西日本で日照時間はかなり少なかった。日本海側の降雪量は記録的に少なかった。1月も比較的温暖な日が続き、北日本では降雪量が少なく、此の先農作物の栽培に影響が出るのではないかと懸念されている。

気象庁の2月～4月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北・東・西日本で高い確率50%、沖縄・奄美で平年並み亦是高い確率ともに40%。降雪量は北日本の日本海側で少ない確率50%。月別予報は次の通り。

2月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が少ない。東日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪亦是雨の日が少ない。西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨亦是雪の日が少ない。北・東・西日本の太平洋側では、平年と

同様晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

3月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

4月、全国的に天気は数日の周期で変わる。東日本の太平洋側と西日本では、平年と同様に晴れの日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

12月の建値市場の野菜の販売量は、232,908トン前年比98%、市場別には多少のバラツキがあるが、総じては前年比減であった。平均単価はkg ¥222前年比103%で、ハクサイ、ダイコン、ニンジンが前年比大幅高となり、平均価格を引き上げた。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比93%、平均単価はkg ¥187前年比102%。東京市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg ¥242前年比105%。名古屋市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg ¥205前年比100%。大阪本場は前年比101%の販売量で、平均単価はkg ¥215前年比97%。福岡市場は前年比97%の販売量で、平均単価はkg ¥167前年比102%となっている。

建値市場の12月の玉葱販売量は27,119トン前年比98%、平均単価はkg ¥75前年比67%で、依然数量減の単価安となっている。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は3,619トン前年比86%、平均単価はkg ¥65前年比67%。東京市場の販売量は9,566トン前年比98%、平均単価

はkg ¥ 77前年比64%。名古屋市場の販売量は7,729トン前年比97%、平均単価はkg ¥ 73前年比74%。大阪本場の販売量は4,107トン前年比114%、平均単価はkg ¥ 74前年比61%。福岡市場の販売量は2,098トン前年比94%、平均単価はkg ¥ 82前年比73%となっている。いずれの市場も、平均単価は前年比安となっており、販売環境の厳しさが続いている。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区の代表荷受7社の12月の主要野菜14品目の販売量は、98,807トン前年比3%減、平均単価はkg ¥ 124前年比1%高となつている。販売量が前年比増の品目は、ピーマン・ジャガイモが前年比8%増、ネギが3%増の3品目。前年比減の品目は、ホウレンソウが前年比16%減、ナスが8%減、トマトが7%減など11品目。価格が前年比高であった品目は、ホレンソウがkg ¥ 557で前年比34%高、ダイコンがkg ¥ 57で30%高、ハクサイがkg ¥ 50で28%高など9品目。前年比安の品目は、タマネギがkg ¥ 63で前年比31%安、ジャガイモがkg ¥ 71で24%安、キャベツがkg ¥ 61で5%安となっている。(玉葱は販売量6%減、単価31%安)

東京都中央卸売市場の12月の野菜の入荷は、129,528トン前年比99%(前月比104%)。平均単価はkg ¥ 242前年比105%(前月比101%)となっている。安値が続いた野菜の一部の品目に回復の兆しが見え始めた。品目で入荷が前年比増の品目は、パレイシヨが前年比121%、キュウリが104%、ハクサイが102%など5品目。入荷が前年比減の品目は、ホウレンソウが前年比85%、レタス、ナマシイタケが90%、ニンジンが92%など10品目。販売単価が前年比高の品目はハクサイがkg ¥ 54で前年比145%、ホウレンソウがkg ¥ 605で144%、レタスがkg ¥ 223で143%など11品目。前年比安の品目は、玉葱がkg ¥ 77で前年比64%、パレイシヨがkg ¥ 87で74%、キャベツがkg ¥ 70で97%など4品目となっている。

東京都中央卸売市場の12月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	129.528	99.0	104.1	242	105.4	101.3
た ま ね ぎ	9.566	98.2	104.4	77	63.8	101.3
は く さ い	15.807	102.4	101.1	54	144.8	80.6
キ ャ ベ ツ	13.999	99.2	91.5	70	97.3	88.6
だ い こ ん	11.809	100.3	109.4	87	136.1	89.7
ば れ い し ょ	8.855	121.1	17.5	87	73.8	97.8
に ん じ ん	8,080	92.0	108.3	141	128.3	120.5
レ タ ス	7,613	90.1	107.6	223	143.1	88.1
ね ぎ	5,799	95.9	110.3	307	104.8	95.6
ト マ ト	5,051	96.1	122.8	381	101.2	70.8
き ゆ う り	3,887	103.6	79.6	546	98.1	140.7
か ぼ ち ゃ	2,888	118.1	91.3	176	72.2	123.1
れ ん こ ん	1,231	99.3	128.6	480	106.8	118.8
な が い も	889	101.0	106.6	283	76.4	96.3
に ん に く	332	95.5	105.4	739	80.9	100.0

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の12月の玉葱の入荷量は9,566トン前年比98%
(前月比104%)。北海物主力で北海物の入荷は、9,130トン前年比100%、
占有率は95%前年比1%ポイントアップ。中国物は234トンの入荷で前年比4

9%、占有率は3%前年比2ポイントダウン。佐賀物は131トンの入荷で前年比157%、占有率1%で前年比0.5ポイントアップ。総平均単価はkg¥77前年比64%(前月比98%)。産地別では、北海物はkg¥76前年比62%。中国物はkg¥97前年比119%。佐賀物はkg¥108前年比37%、年末も産地の期待に反し厳しい販売環境が続いた。

1月に入ってからも、北海物の入荷は前年をやゝ下回っているが、相場に変化はなく、数量減の価格安の市況が続いた。月後半には売れ行きが鈍化傾向になり、北見管地域の大手JAでは「出荷は計画通りで在庫は多くない」と強気で指値堅持を要請されたが、中には「指値販売よりも、量的販売を」とのJAもあり転送業者の提案値はL大1,100、L¥1,000の着値での売り込みがあり、L大¥1,300で売り辛くなった。他方、静岡物は前年の2倍以上の入荷で、相場は意外に早く値下がりしているものの、早春商材で荷動きはまずまずであった。北海物は月半ばには、相場の値上がりを目論んだ産地JAの入荷が減少傾向となり、荷動きにやや回復の兆しが見えたが、2~3日で逆戻りした。此処に来て、指値と実勢価格の価格差が開き、荷受け各社は拡販を諦め、販売損の縮小に努めている。為に在庫は増加傾向にある。見切り売りの裏相場は、L大、Lともに¥1,000に落ち込んでいる。静岡物は拠点市場重点の入荷だが、荷動き鈍化で下値販売が増えている。

初市の5日~20日の玉葱の入荷量は4,522トン前年比96%、平均単価はkg¥95前年比69%となっている。産地別では、北海物の入荷は3,940トン前年比92%、平均単価はkg¥78前年比59%。静岡物の入荷は379トン前年比227%、平均単価はkg¥251前年比84%、中国物の入荷は128トン前年比54%、平均単価はkg¥104前年比124%となっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の12月の玉葱販売量は、7,729トン前年比97%（前月比124%）で前年比減、前月比増となった。主力は北海物で、販売量は7,690トン前年比93%、占有率は99%で前年比1%アップ。兵庫物の販売量は14トン前年比85%。中国物は14トン前年比50%となっている。総平均単価はkg73前年比75%（前月比99%）で、前年比前月比ともに安値となっている。産地別では、北海物はkg¥72前年比74%、兵庫物はkg¥155前年比79%、中国物はkg¥84前年比115%となっている。

1月初めは、北海物の直送品は少なかったが、コンテナヤードに滞留物があり、量的には潤沢だった。極力相場維持に努めながらの販売を続けたものの、数量が捌けず在庫が増え、仲卸には転送業者から廉価の売り込みがあり、販売に苦勞した。静岡物の初荷は指値が高く、販売を遠慮した。此処に来て、新物の生育が前進化し、地場物の入荷が目前に迫り、北海物の在庫処理に責められている。ホクレンの業務・加工向けも、市況安で契約物より市場調達割安で入手出来るため、加工筋から契約量の減量要請が強い。静岡の新物の入荷は、未だ多くはないが、荷動きは鈍く、下値販売が多い。愛知物が来週より入荷の予定で、名古屋地区は地産地消の意識が強く、愛知物が出回ると他産地物は売り辛くなる。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の12月の玉葱の販売量は、4,107トン前年比114%（前月比99%）で前年比増、前月比減であった。主力の北海物は、3,403トン前年比111%、占有率83%前年比2ポイントダウン。兵庫の冷蔵物は690トン前年比131%、占有率は17%で前年2ポイントアップ。和歌山物は9トン前年比2,057%。総平均単価はkg¥74前年比61%（前月比97%）。産地

別では、北海物はkg ¥68前年比59%。兵庫物はkg ¥107前年比68%。和歌山物はkg ¥59で前年比219%となっている。

今年の初市は、北海物の着荷はなく、強含みの幕開けとなった。兵庫の冷蔵物は、引き合い強く値上げ販売となった。静岡の新物は、品質良好で例年通りJAの指値10kgL ¥3,000で仕切ったものの、前捌きが今一つで採算割れとなった。月半ばからは、兵庫の冷蔵物は売れ行き鈍化で、値下がり傾向となった。北海物も荷凭れ感が出て、上値少なく下値が多い弱保合傾向となった。静岡の新物は、入荷増と共に値下がり傾向となっている。今週に入り、兵庫の冷蔵物に品質劣化の銘柄が増え、人気離散で値下がり傾向。北海物はJAの指値が高く、実勢値との開きが大きくなり、採算割れで消極的な販売傾向に転じている。静岡物も入荷増で、荷動き鈍く仲卸の多くは様子見の当用買いで値下がり傾向である。

初市から20日までの入荷量は1,921トン前年比138%、平均単価はkg ¥90前年比61%。産地別では、北海物の入荷は1,388トン前年比133%、平均単価はkg ¥69前年比51%。兵庫物は404トンの入荷で前年比142%、平均単価はkg ¥115前年比68%。静岡物の入荷は124トン前年比245%、平均単価はkg ¥241前年比77%となっている。此の先新物の入荷が増え、販売環境は更に厳しくなりそうだ。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の12月の玉葱販売量は、2,098トン前年比94%(前月比77%)で、前年比、前月比ともに減であった。北海物主力で北海物の販売量は1,791トン前年比95%、占有率は85%前年比1ポイントアップ。中国物が197トン前年比68%、占有率9%前年比4ポイントダウン。香川物が47トン前年比102%、占有率2%で前年と同じ。総平均単価はkg ¥82前年比73%。

(前月比104%)。産地別の平均単価は、北海物がkg¥80で前年比69%、中国物がkg¥83前年比109%。香川物はkg¥96前年比56%となっている。

1月に入って、北海物の着荷は減少傾向で、在庫はやや減少したが、相場・荷動きに変化なく凡調。愛媛の冷蔵物は、入荷量は少ないが品質良好で引き合い強く順調な動きであった。月半ばには長崎物の走りが入荷したが、JA島原雲仙は品質良好で、評価が高く、高値販売。昨今は、北海物主力に香川・愛媛の冷蔵物、長崎・佐賀の新物の併売となっている。2月になれば、日を追って新物のウエイトが高くなり、指値高の北海物の販売が更に厳しくなる。

年始の5日～20日の玉葱販売量は、1,064トン前年比127%、平均単価はkg¥85前年比65%で、いずれの産地も数量増傾向で、価格は大幅安の厳しい環境が続いている。

1月27日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷188トン 強保合

北 海 20kgDB2L 入荷なし L大¥1,700～1,000、 L¥1,400～

M 入荷なし

北 海 20kgNT2L¥800～550、 L大¥800～550、 L¥800～550、

M¥450～400。

【太田市場】 入荷307トン 強い

北 海 20kgDB2L¥1,400～1,000、 L大¥1,500～1,000、 L¥1,300～1,000、

静 岡 10kgDB2L¥1,500～1,400、 L¥2,000～1,800、 M¥1,500～1,600

B¥1,500～1,400。

【名古屋北部】 入荷129トン 強い

北 海 20kgDB2L¥1,400～1,200、 L大¥1,500～1,300、 L¥1,300～1,100、

静岡 10kgDB2L ¥1,500～1,400、 L ¥2,000～1,800、 M ¥1,700～1,600、
B ¥1,500～1,400。

【大阪本場】 入荷89トン 弱保合

兵庫 10kgDB2L ¥900 ～ 500、 L ¥1,200～ 800、 M ¥1,000～ 800。
北海 20kgDB2L ¥1,300～1,200、 L大 ¥1,400～1,150、 L ¥1,300～1,050。
静岡 10kgDB2L ¥1,600～ 500、 L ¥2,300～1,800、 M ¥1,700～1,600
B ¥1,700～1,500。

【福岡市場】 入荷96トン 弱い

香川 10kgDB2L ¥900 ～ 700、 L ¥1,000～ 900、 M ¥1,000～ 900。
北海 20kgDB2L ¥1,400～1,300、 L大 ¥1,600～1,400、 L ¥1,500～1,300。
長崎 10kgDB2L ¥2,000～1,900、 L ¥2,500～2,400、 M ¥2,400～2,300。
佐賀 10kgDB2L なし L ¥1,500～1,400、 M ¥1,500～1,400。

供給(産地)の動き

12月の主要市場の野菜の販売量は前年比2%減、価格は前年比3%高となった。レタス、ダイコン、ハクサイ等の大型野菜の市況が回復傾向となり、関係産地では、年末年始の市況に多少の期待が持てる様になった。反面、バレイシヨ、タマネギは北海道産地の在庫が豊富で、拡販に頭を悩ましている。府県の早産地は、11～12月の温暖と適雨に恵まれ、初期生育が前進化し作柄良好で、静岡物は新年早々からの出荷で、作付は前年比101%、出荷は1～2月重点で、1月出荷は前年比159%の計画である。長崎物は前年並みの作付だが、生育は前進化して、立春から連続出荷となる予想。輸入物は、中国物は値下がりが予想されるものの、旧正月の関係や新型肺炎の感染などから輸入は減少傾向が続くと予想される。

北海道産地

北海物の出荷進捗率は、ホクレンの報告では12月末の年内実績は、計画通りで進捗率64%となっているが、地域別で大差が生じていると見られる。北見地域のJAの大手は、ほぼ計画通りの進捗率だと話しているが、他の地域では60%を割り込むと言うJAも多く、実態は定かでない。既に、次シーズンの作付準備の時期を迎え、出荷に焦りが見受けられる地域が多く、強気の姿勢が崩れつつある。年内の市場向け販売量は、不作と言われた前年をやや下回っており、市況は前年比大幅安であった、産地の出荷が計画通りとすれば、豊作で出回り量が前年比15~20%多いとされた玉葱が、何処に消えたか疑問が残る。本年の商品化率は前年を上回り、球流れも大粒で、前年に比べ予想を上回る出回り量となったことは関係者の周知するところである。仮に、越年の産地在庫が40%以下であるとすれば、年内出荷は輸出の増加、加工筋向けの大幅増、直販の増加、流通段階の滞留・在庫増、これらが多量でなければ、収穫・出回り量の読み違いとなる。2月になれば、次シーズンの播種・育苗が始まるが、いずれの生産者も春先の市況と府県産の作柄を気にしている。

府県産地

府県産冷蔵物の越年量は、全玉連の調査では13,100トン前年比107%。出荷進捗率は52%で前年比1ポイントの前進化。正品化率は前年に劣るため。市場出荷はほぼ前年並みかやや多い程度と見ている。

早生の先陣を切って出荷が続いている静岡物は、順調な作柄を反映して、1月の出荷量は計画を大幅に上回り、前年比で倍増している。静岡に続く、長崎、佐賀、愛知の早生物の生育も、温暖適雨の天候の影響でかなり前進化している。出荷が静岡に続く長崎の作付けは、耕地整理の関係などからほぼ前年並み、生育は前進化しているが、病害が少なく豊作型。既に、島原地区の一部で

出荷が始まり、立春後は最盛期に入る。諫早(長田)地区の生育も前進化しているものの、出荷は3月になる。生育は順調で病害が少なく、豊作型が見込まれているが、昨今、天候不順で雨天曇天が多く日照時間が少ない。

佐賀も生育は前進化傾向だが、圃場格差が大きく、早い圃場では一部で出荷が始まっているが、総じては10日前後の前進化で、2月出荷は少量である。温暖多湿で、べと病の発生が散見され、病害球の早期発見、即抜き取りが提唱されている。作付は病害の発生率が高い中晩生が大幅に減反されている。近年、べと病の発生で、生産性が低下し、採算割れが続き玉葱栽培を断念する生産者が増え、産地は縮小傾向にある。

兵庫の冷蔵物は、大粒で2Lの発生率が高く、市況は2Lが安値に加え、此処に来て品質劣化が目立ち、商品化率の低下が懸念されている。従来、冷蔵に適格種と言われていた「もみじ」系の劣化が早く、冷蔵向け品種の再考が提唱されている。今年の作付はほぼ前年並みで、早生系で多収系のレクスター種が増え、中晩生種の「ターザン」が減っている。生育は総体的に前進化しているが、徒長気味である。温暖多湿で、極早生にべと病の発生が散見されている。淡路島の生産者は、防除が徹底しているため、佐賀のような大きな被害はないと見ている。

愛知も生育は前進化し、例年より早く2月半ばから出荷が始まる。その他の中小産地も、生育は前進化し且つ順調である。

輸入動向

12月の輸入は、速報値で21,759トン前年比82%で、ほぼ予想された数量である。主力は中国物で輸入量の97%を占めている。国別では中国が21,143トン前年比91%。アメリカが612トン前年比18%となっている。

中国、現在も主力は甘粛省で、産地在庫は例年に比べると少ない。との情報を

聴取しているが定かでない。亦、此の先の価格見通しも不透明である。後続産地の雲南省の作付面積は増反傾向で、生育状況も順調と報告されている。収穫は2月後半から始まり、日本向けは例年3月からの出荷となる。価格は終盤を迎えた甘粛省の需給動向に左右され、現時点での予想は至難である。現在の甘粛産の価格は、20kg・C&F・剥き玉 \$ 10.40、皮付き \$ 8.00 である。

アメリカ、今シーズンの貯蔵性玉葱の作付面積は、前年比97%と報告されている。シーズン当初から価格高で、今シーズン12月までに日本が輸入した数量は1,503トンに過ぎない。1/1時点の在庫量は前年比97%で、メキシコからの引き合いが強いとのこと。日本向け価格は、50kg・C&F・黄玉J、SJサイズとも \$ 12.95、赤玉J、SJとも \$ 15.95 である。

ニュージーランド、早生系の収穫が始まっているが、日本側との成約は進んでいない。産地は従来の主産地ブケコエが市街地が進み、栽培地は南島に移行している模様。生産者の多くは、日本向けを期待している。と言う。

2月の市況見通し

1月21日の全玉連の情報交換会で、検討された1月～4月の玉葱供給量は、府県の冷蔵物が13,100トン前年比107%。北海物の流通段階の在庫が30,000トン前年比214%。北海物の道外移出が210,000トン前年比121%。他方、外国物の輸入は73,200トン前年比70%。府県の新物は55,000トン前年並み。総計380,800トン前年比106%と試算している。いずれにしても需給バランスは供給過剰傾向と予想され、産地の集出荷業者も荷受け各社も、現状の販売環境では、市況の回復・好転は望み薄く、2～3月の販売環境は更に厳しくなる。と痛感している。

前号でも、指摘した様に近年北海物の販売は、ホクレン主導で成果を上げて来

たが、今年のように豊作で出回り量が多いにも拘らず、終始売価先行で指値が高く、実勢価格との乖離が続き、荷受け各社は北海物の販売は終始赤字続きで、拡販すると赤字が増えるので動けない。との声が高い。荷受けであれ、流通業者であれ、多少の利益(手数料)がなければ、販売に精励出来ない。生産者にとっては、再生産価格の確保は重要だが、今年の数値減の価格安は指値と実勢価格との乖離が拡販を阻んでいる。寡占化が進むホクレン系統に望むことは、今年のような豊作年の販売対策の再考であり、販売環境を凝視して貰いたい。(了)